

『灘・夢ナリエ』にて弊社「酒造り唄研究会」が酒造り唄を披露

7月16日に開催された『第9回 灘・夢ナリエ』の「たそがれコンサート」において、弊社「酒造り唄研究会」が伝統の酒造り唄を披露しました。

この研究会は、丹波流酒造り唄を歌い継ぎ、さらに酒造りの心も受け継ぐために2003年から活動を始めました。業務終了後の時間を利用して、ひと月に2回程度練習を積み、地域のお祭りなどを中心に唄の披露を行っています。

酒造り唄は、寒い冬に故郷丹波を離れ出稼ぎで酒造りに携わる丹波杜氏の士気を鼓舞し、榎入れ作業の拍子取りや、作業時間を計る時計代わりに唄われてきました。この日披露した唄は、次の4曲です。

- 秋洗い唄：酒造りの前に桶や道具を洗い清めるときに唄いました。故郷を思う気持ちと、これからの酒造りへの情熱を込めて唄いました
- 酛摺り唄：米・麴・水を仕込み酵母を育てる工程のうち、「酛摺り」と呼ばれる仕事で唄いました。歌詞に松・鶴・亀などがちりばめられた、特に目出度い唄です
- 仕舞唄：夕飯前に蔵にある醪全てに榎を入れるときに唄いました。唄の歌詞でお伊勢参りをする道程が描かれております
- 三本榎：夕飯と風呂上りののち、この日仕込んだ醪に榎を入れます。醪が軟らかくなったところで、この唄を唄いながら三本の榎を用いてリズムカルに榎を入れました